

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1473200648
法人名	特定非営利活動法人 のぞみ
事業所名	のぞみの家
訪問調査日	平成24年11月14日
評価確定日	平成25年3月1日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200648	事業の開始年月日	平成15年2月1日	
		指定年月日	平成18年8月1日	
法人名	特定非営利活動法人 のぞみ			
事業所名	のぞみの家			
所在地	(241-0033) 横浜市旭区今川町90-5			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな雰囲気の中で、ゆったりと穏やかに暮らせるホームを目指しています。私達の支援の理念としては、「私たちはあなたと真正面から向き合い、どのような時でもあなたらしく生きられる、人生のステージ作りをお手伝いさせていただきます」を掲げています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成24年11月14日	評価機関 評価決定日	平成25年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームの経営母体は、NPO法人「のぞみ」である。この法人は、横浜市・川崎市・藤沢市にグループホームを5か所展開し、その他に、居宅支援、通所介護、訪問介護、都市型共同住宅の事業所も運営している。このホームは、相鉄線の二俣川駅から徒歩20分程度の保土ヶ谷バイパスを横切った丘陵地にあり、今川町公園や畑に囲まれた緑豊かな環境の中にある。法人の理念として「のぞみの家のご主人は、入居者本人。職員は、ご主人の自立を支援しながら穏やかに安らぎの暮らしを手助けする。」と謳われている。この理念の具現化として「健康に生きる」から始まる「私たちが支える六つの生きる」を掲げ実践している。利用者の穏やかな生活を維持することが大切であり、「利用者は職員の鏡」との考えから職員が穏やかに笑顔で仕事することをモットーにしている。

②地域との交流は、地域の自治会に加入しており、管理者は自治会の役員として、毎月の役員会に出席している。地域の行事の夏祭りや防災委員会にも参加している。地域の清掃活動にも参加しており、ホーム周辺の清掃には、気を配っている。地域の幼稚園の敬老会にも招待され、参加している。地域の中学生の体験学習も受け入れており、その際は利用者は、中学生とトランプや大きなカルタ遊びをしたりして、楽しい交流が行われている。

③医療連携体制については、経験豊かな看護師が、法人全体の総括責任者であり、かつ医療連携責任者でもあり、傘下のグループホームを巡回されており、緊急の場合もすぐ適切な対応がなされる為、管理者・職員は、安心して介護にあたれている。全体的に重度化が進んでいる為、看取り介護に直面することもあるが、職員の支援体制は確立しており、重度化に合わせて、的確な時期にご家族と十分に協議重ねて、条件が整えば、終末期まで支援をしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム のぞみの家
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を支える「6つの生きる」として健康・安全・心豊かに・その人らしく・お互い成長しながら・地域の中で生きるを中心に、各職員は最適のケアを提供できるように努めている	理念を支える「6つの生きる」として健康・安全・心豊かに・その人らしく・お互いに成長しながら・地域の中で生きるを掲示し、各職員は、利用者が「生かされている」ではなく「生きている」との実感を得て頂けるよう。最適のケアを提供出来るよう努めている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者全員が自治会員となっており、ホーム役員でもあり、毎月の役員会にも出席している。地域のイベントには積極的に参加、又ホームの行事にも地域の方を招いている。	地元の自治会に加入しており、このホームの管理者は、自治会の役員を引き受けており、毎月の役員会に出席している。地域のイベントや行事（夏祭り・防災委員会）には積極的に参加している。地元中学生の体験学習も引き受けており、その際には利用者とトランプやカルタで交流している。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の体験ボランティアの受け入れ等時、認知症の方の対応方法をや理解を深めてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。地域の方や家族の意見を聞き、運営の参考にしてしている。会議の結果は行政（旭区）に報告している	2カ月に1回定期的に開催している。自治会・民生委員・包括支援センター・ご家族等がメンバーで活動報告やヒヤリハット報告等を議題に出し、ご意見等を伺い運営の参考にしてしている。会議の議事録は、行政に提出している。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の研修や学習会に参加している（衛生関係等）。横浜市グループホーム連絡会・旭区瀬谷ブロックグループホーム連絡会に参加して、協力関係を築くようにしている	行政主催の研修や学習会に参加してタイムリーな情報を得るようにしている。横浜市グループホーム連絡会・旭区・瀬谷ブロック連絡会に参加して協力関係を築くようにしている。地元地域ケアプラザ主催の認知症サポーターとの研修会には、5名も参加した。、	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間や緊急時以外はおこなっていない。、寄り添うケアの研修に参加したり、施設内学習会を実施している。身体拘束も行っていない。	身体拘束は行っていない。車椅子で座位が保てない利用者にはリクライニング車椅子で対応し安全ベルトの着用を避けている。寄り添うケアの研修に参加したり、言葉の拘束については、施設内学習会を実施して職員に意識付け行っている。玄関の施錠は、夜間や緊急時以外は、行っていない。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、施設内学習会を実施している。職員のストレスの少ない、働きやすい環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、権利擁護に関する学習会に参加し理解を深めるようにする必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となって行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置。又、家族の来所時要望を聞いたり、苦情相談、運営推進会議等の意見を事業運営に反映させている	家族会を年1回開催しご意見を聞いている。運営推進会議に家族代表だけでなく都合の付くご家族に参加を促し、毎月の変化を見て頂き、ご意見をいただくよう計画している。利用者の2/3のご家族は、毎月一度は来所されるので、職員はご家族との信頼関係を築き、何でも言ってもらえる関係の作るべく取り組んでいる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体ミーティングを行い、職員の意見や提案をきき、業務改善に反映されるように努めている。必要に応じて理事長に上申することもある	毎月全体会議を行い職員の意見や提案を聞き、業務改善に反映されるように努めている。毎月法人での管理者会議には、理事長も出席するため、管理者は、必要に応じて理事長に上申することもある。職員に個別の相談事がある場合には、管理者は、都度個別面談を行い、課題の解決にあたる。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員新規採用の場合は一定期間の研修として、職員について利用者の状態（ケアを含む）を理解してもらい、「レポート」を提出してもらっている。職員も希望の外部研修や内部研修の参加を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県・市・地域ブロックのグループホーム連絡会に参加して勉強会・サービスの質の向上に取り組んでいる		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後の初期対応として、ご本人と家族としっかり話し合い、アセスメントも行なった上でご本人の安心感を持てるように関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、ケアプランや手紙や来所時に、話し合いを行い少しでも安心していただけるように、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、ケアプランや手紙や来所時に、話し合いを行い少しでも安心していただけるように、関係づくりに努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人の個人として、一緒に生活に生活する、支えあう関係を大切にしている。又、職員間の和を保つように努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望をケアプランに反映しながら、職員と共に支えて行く関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、近所の方々が気安く来所できる雰囲気づくりをしている。懐かしげに笑顔を見せる入所者もいらっしゃる	ご家族や友人、近所の方々が気安く来所出来る雰囲気作りをしている。以前利用者を実家に連れて行った際、その方は、感覚的に感じ取った様子が分かった。その感覚を一瞬でも利用者に味わって頂くべくご家族には、外出・お墓参りなどをお願いしている。利用者の通院の際、3人兄弟が来て利用者と一緒に出かけ馴染みの関係を維持されている方も居る。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しているような入所者には職員が間に関わり、楽しく過ごせるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、入院されている方への面会に行き、相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り本人の意向に添えるように努めている。午後から不穏が多くみられる場合は散歩・対話・レクリエーション等で対応している	基本的には、そばに寄り添う事が大事である。意向を言葉で表現しにくい利用者には、職員が何度も積極的に話しかけて、発語があった場合に意味を汲み取るよう努めている。午後から不穏が多くみられる場合は、散歩・対話・レク等で対応している。近所のユニクロに買い物に行きたい利用者には、個別対応で付き合い社会参加して頂いている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの中での、これまでの環境・生活歴や習慣等を把握して対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がその人に寄り添う事で、その日の心身の状態、一日の過ごし方等の把握に努める		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望・アセスメント・カンファレンス・毎日の記録を反映させ、介護計画を作成している	ご家族の要望・アセスメント・カンファレンス・毎日の記録を反映させ、介護計画を作成している。毎日の記録が、一日の流れの記入になっており、介護計画に沿った記録になっていない為、その方の生活がイメージできる記録方式に改善出来ぬか検討している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては、業務日誌をはじめ、ケース記録・排泄・水分摂取・バイタルチェック・体重等を項目別実施。毎日の申し送りやカンファレンスで情報共有しケアに反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに柔軟に対応しているが、十分とはいえない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議への参加依頼や町内会の集まりに参加。地域のイベントに参加。消防署との連携して防災訓練を実施したりして。支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が、月2回の訪問診察を受診している。緊急時は電話やファックスにて指示を受けている	ほとんどの利用者が、月2回の訪問診療を受診している。歯科医は、必要に応じて往診頂いている。緊急時には、24時間対応で、法人の看護師兼務の総括責任者と連絡を取り、指示を受けて対処している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はほぼ毎日電話や来所して、入所者の健康管理に努めている。緊急時は電話で指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院や新たな受診の際、サマリーを用意、看護師・管理者・家族等も同席して状況を説明して、病院関係者との関係を行なっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に合わせて、家族と十分に協議を重ねている。できるだけ長くホームで暮らしていただき終末期まで支援させていただく方針である。	重度化に合わせて、ご家族と十分協議を重ねている。看取りの同意書は、終末期に入った段階で話し合っており取り決めていく。看取り介護については、毎回対応が違う為、都度1か月前には、職員全員を集めて、総括責任者が、ポイントを指導し、職員が不安なく対応できるよう準備している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えての、応急手当や初期対応の訓練は、今年度はおこなっていないが個人的研修に参加して実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を役割を決め、年に数回行なうようにしている。又、緊急連絡網を作り訓練に入れている。町内会より数名の参加があり、今後も地域との連携に努めるようにしたい	避難訓練は、火災（日中と夜間対応）と自然災害に分けてそれぞれ2回、合計年4回の訓練を行っている。避難訓練の前には、運営推進会議でメンバーに予定を伝え、参加を呼び掛けて町内会より数名の参加があり、今後も地域との連携に努めるようにする。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・個人の尊厳・プライバシーに関する事はマニュアルにも定めている。外部研修に参加した職員による施設内研修も行なって、常に尊重した対応を心掛けている	人生の大先輩に対する敬意と人格への尊重は、日頃より大切に考え、接遇・個人の尊厳・プライバシーに関する事はマニュアルに定め、外部研修に参加している。外部研修に参加した職員による施設内研修を行って職員全員の共通認識なるよう心がけている。利用者との付き合いが長い職員が多く、友達感覚になりやすいので、今年目標としてもう一度「接遇」を考え直す事を掲げている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状況に応じた意思決定を出来るだけ尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、個々の入居者に合わせたケアプランを設定しているが、個々の希望に添った支援を十分にしないとされる事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問による理容師に散髪をしていただいている。日頃の身だしなみは職員が支援。行事や外出等の日はお気に入りの洋服を着たりしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状況に応じた食事形態により出来るだけ食べていただくように支援している。現在重度化してきたので準備は、野菜で簡単な下ごしらえのみで、片付けはできない。食事は一緒に話しをしながら食べている	関連会社よりメニューと食材は取り寄せている。個々の状況に応じた食事形態にしている。骨付きの魚を出し、骨を取り除く作業をすることにより自立度を維持する工夫もされている。食事は、職員も一緒に会話を楽しみながら食べている。利用者の重度化によりお手伝いは難しくなってきた。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が作成する献立表により食事を提供している。個々の状況に応じて刻み食・ミキサー食等で提供。摂取量・水分量等を記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。歯磨きの促しやクルリーナ等で口腔内の清潔を保っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表等を参考にして排泄パターンを把握し、出来るだけ自力でのトイレ利用を見守るように支援している。	排泄表を参考にして、排泄パターンを把握し、出来るだけ自力でのトイレ利用を見守るよう支援している。間隔が長くなった時には、声かけによりトイレ誘導を行っている。入院から帰って来た利用者には、おむつからトイレ誘導を習慣づけリハパン対応になった利用者も居る。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用して便秘などの状態を観察している。職員は運動や食事・水分摂取等を積極的に支援し、便秘予防に努めている。便秘になり易い方は医師・看護師と相談で薬剤コントロールを行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ利用者の希望に沿って入浴できるように、職員がコミュニケーションをとりながら楽しく入浴できるように支援している	週3回の入浴を基本としている。午前中は、おしゃべりや洗濯たみなどで身体を目覚めさせ入浴は午後に行っている。職員がコミュニケーションを取りながら楽しく入浴出来るよう支援している。季節感を味わって頂くため、柚子湯やミカンの皮乾燥品を入れたりして楽しんでいる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに沿って、体調に合わせて休息・睡眠がとれて気持ちよく過ごせるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導、指示等により管理。職員が介助にて服薬。常に症状の変化等観察して報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合わせた役割をお願いしている（洗濯物たたみ等）。又、レクリエーション活動ではその方の得意な分野をしていただき気分転換を図っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩は少なくなってきたが、玄関の外付近の花を見たり景色を眺めたりしている。家族の通院付き添い時、外の景色を楽しんでいたくようお願いしている。	重度化が進み、戸外への散歩は少なくなってきたが玄関付近の花を見たり景色を眺めたりして毎日一度は外気浴をしている。ご家族の通院付き添い時、外の景色を楽しんで頂くようお願いしている。買い物に出かける利用者には個別対応で同伴して支援している。お花見・紅葉狩り等のドライブは、春・秋に行っている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が、施設管理となっている。買い物に支払っていただく事もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者や家族の要望があったりできるだけ支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで日中過ごされているので、テレビをつけてあり、関心のある番組はよく観ておられる。壁には季節に合わせた飾りつけを行い楽しんでいただいている。	リビングは利用者のほとんどが日中過ごされているのでテレビを置いてあり、関心のある番組はよく見ておられる。壁には季節の飾り付けを行っているが、不要な飾りはせず、スッキリさせている。掃除は、毎日リビングは1回トイレは2回行い、清潔感を保つようにしている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで日中過ごされているが、顔見知りの利用者や職員と話をしたり、笑顔を見せるだけでも安心できるように努めている。又、日光浴をしながら利用者同士が対話を楽しんでいる事も見られる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、使い慣れた好きな家具を持ってこられるので、その方が落ち着かれる部屋づくりの手伝いをさせていただいている	入所の際、使い慣れた好みの家具や備品を持って来て頂いているので、その方が落ち着かれる部屋作りをさせて頂いている。仏壇を持参されている方も居る。重度化のために、居室の掃除は、職員が行っている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で安心できる環境づくりをしている。施設の中はバリアフリーとなっており、廊下、トイレ等には手すりを設置されている。外回りは様子をみながら手引き歩行や、車椅子対応をしている。		

事業所名	グループホーム のぞみの家
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を支える「6つの生きる」として健康・安全・心豊かに・その人らしく・お互い成長しながら・地域の中で生きるを中心に、各職員は最適なケアを提供できるように努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者全員が自治会員となっており、ホーム役員でもあり、毎月の役員会にも出席している。地域のイベントには積極的に参加、又ホームの行事にも地域の方を招いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の体験ボランティアの受け入れ等時、認知症の方の対応方法をや理解を深めてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。地域の方や家族の意見を聞き、運営の参考にしている。会議の結果は行政（旭区）に報告している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の研修や学習会に参加している（衛生関係等）。横浜市グループホーム連絡会・旭区瀬谷ブロックグループホーム連絡会に参加して、協力関係を築くようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間や緊急時以外はおこなっていない。、寄り添うケアの研修に参加したり、施設内学習会を実施している。身体拘束も行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、施設内学習会を実施している。職員のストレスの少ない、働きやすい環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、権利擁護に関する学習会に参加し理解を深めるようにする必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となって行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置。又、家族の来所時要望を聞いたり、苦情相談、運営推進会議等の意見を事業運営に反映させている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体ミーティングを行い、職員の意見や提案をきき、業務改善に反映されるように努めている。必要に応じて理事長に上申することもある		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員新規採用の場合は一定期間の研修として、職員について利用者の状態（ケアを含む）を理解してもらい、「レポート」を提出してもらっている。職員も希望の外部研修や内部研修の参加を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県・市・地域ブロックのグループホーム連絡会に参加して勉強会・サービスの質の向上に取り組んでいる		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後の初期対応として、ご本人と家族としっかり話し合い、アセスメントも行なった上でご本人の安心感を持てるように関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、ケアプランや手紙や来所時に、話し合いを行い少しでも安心していただけるように、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、ケアプランや手紙や来所時に、話し合いを行い少しでも安心していただけるように、関係づくりに努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人の個人として、一緒に生活に生活する、支えあう関係を大切にしている。又、職員間の和を保つように努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望をケアプランに反映しながら、職員と共に支えて行く関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、近所の方々が気安く来所できる雰囲気づくりをしている。懐かしげに笑顔を見せる入所者もいらっしゃる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しているような入所者には職員が間に関わり、楽しく過ごせるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、入院されている方への面会に行き、相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り本人の意向に添えるように努めている。午後から不穏が多くみられる場合は散歩・対話・レクリエーション等に対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの中での、これまでの環境・生活歴や習慣等を把握して対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がその人に寄り添う事で、その日の心身の状態、一日の過ごし方等の把握に努める		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望・アセスメント・カンファレンス・毎日の記録を反映させ、介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては、業務日誌をはじめ、ケース記録・排泄・水分摂取・バイタルチェック・体重等を項目別を実施。毎日の申し送りやカンファレンスで情報共有しケアに反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに柔軟に対応しているが、十分とはいえない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議への参加依頼や町内会の集まりに参加。地域のイベントに参加。消防署との連携して防災訓練を実施したりして。支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が、月2回の訪問診察を受診している。緊急時は電話やファックスにて指示を受けている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はほぼ毎日電話や来所して、入所者の健康管理に努めている。緊急時は電話で指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院や新たな受診の際、サマリーを用意、看護師・管理者・家族等も同席して状況を説明して、病院関係者との関係を行なっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に合わせて、家族と十分に協議を重ねている。できるだけ長くホームで暮らしていただき終末期まで支援させていただく方針である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えての、応急手当や初期対応の訓練は、今年度はお行なっていないが個人的研修に参加して実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を役割を決め、年に数回行なうようにしている。又、緊急連絡網を作り訓練に入れている。町内会より数名の参加があり、今後も地域との連携に努めるようにしたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・個人の尊厳・プライバシーに関する事はマニュアルにも定めている。外部研修に参加した職員による施設内研修も行なって、常に尊重した対応を心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状況に応じた意思決定を出来るだけ尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、個々の入居者に合わせたケアプランを設定しているが、個々の希望に添った支援を十分にしないとされる事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問による理容師に散髪をしていただいている。日頃の身だしなみは職員が支援。行事や外出等の日はお気に入りの洋服を着たりしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状況に応じた食事形態により出来るだけ食べていただくように支援している。現在重度化してきたので準備は、野菜で簡単な下ごしらえのみで、片付けはできない。食事は一緒に話しをしながら食べている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が作成する献立表により食事を提供している。個々の状況に応じて刻み食・ミキサー食等で提供。摂取量・水分量等を記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。歯磨きの促しやクルリーナ等で口腔内の清潔を保っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表等を参考にして排泄パターンを把握し、出来るだけ自力でのトイレ利用を見守るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用して便秘などの状態を観察している。職員は運動や食事・水分摂取等を積極的に支援し、便秘予防に努めている。便秘になり易い方は医師・看護師と相談で薬剤コントロールを行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ利用者の希望に沿って入浴できるように、職員がコミュニケーションをとりながら楽しく入浴できるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに沿って、体調に合わせて休息・睡眠がとれて気持ちよく過ごせるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導、指示等により管理。職員が介助にて服薬。常に症状の変化等観察して報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合わせた役割をお願いしている（洗濯物たたみ等）。又、レクリエーション活動ではその方の得意な分野をしていただき気分転換を図っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩は少なくなってきたが、玄関の外付近の花を見たり景色を眺めたりしている。家族の通院付き添い時、外の景色を楽しんでいたくようお願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が、施設管理となっている。買い物に支払っていただく事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者や家族の要望があったりできるだけ支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで日中過ごされているので、テレビをつけてあり、関心のある番組はよく観ておられる。壁には季節に合わせた飾りつけを行い楽しんでいただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで日中過ごされているが、顔見知りの利用者や職員と話をしたり、笑顔を見せるだけでも安心できるように努めている。又、日光浴をしながら利用者同士が対話を楽しんでいる事も見られる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、使い慣れた好きな家具を持ってこられるので、その方が落ち着かれる部屋づくりの手伝いをさせていただいている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で安心できる環境づくりをしている。施設の中はバリアフリーとなっており、廊下、トイレ等には手すりを設置されている。外回りは様子をみながら手引き歩行や、車椅子対応をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

のぞみの家

作成日

H24. 11. 14

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	長年勤務の職員が多く利用者とは慣れ親しんだ関係になっている為上から目線や友達言葉、指示語、禁止語が多い	職員全員が利用者の人格・人権・プライバシーを尊重できる	職員各々が自らの気づき、振り返りをし、日頃気づいている事を提示する。その後全体で学習会の開催	1年間
2	46	利用者の希望に沿った外出ができない。買い物希望されても希望に沿うことができない。	気分転換が図れる ストレスの解消に効果が得られる 利用者とスタッフのコミュニケーションが得られる	①家族の協力を得ながら外出の機会を作る ②業務形態を見直しつつ、近場（公園、駐車場）の散歩を実施する	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。